

第250回地震予知連絡会（令和8年2月20日）各機関からの提出議題

【1】気象庁

1. 地殻活動の概況

a. 地震活動

(O) 全国M5.0以上の地震と主な地震の発震機構

要旨：2025年11月～2026年1月の全国の地震活動概況を報告する。

3. プレート境界の固着状態とその変化

a. 日本海溝・千島海溝周辺

(S) 釧路沖の地震（1月15日 M5.6）

(O) 三陸沖の地震活動（最大規模の地震：11月9日 M6.9）

要旨：2025年11月9日17時03分に三陸沖の深さ16kmでM6.9の地震が発生した。この地震は、発震機構（CMT解）が西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。この地震により、岩手県盛岡市、矢巾町及び宮城県涌谷町で震度4を観測したほか、東北地方を中心に北海道から中部地方にかけて震度3～1を観測した。また、東北地方で長周期地震動階級1を観測した。さらに、岩手県の大船渡で16cm、宮古で9cmの津波を観測した。

気象庁はこの地震に対して、最初の地震波の検知から16.0秒後の17時05分02.6秒に緊急地震速報（警報）を発表した。また、9日17時12分に岩手県に津波注意報を発表した（9日20時15分に解除）。

この地震の震央付近では、11月4日から地震活動がみられ、同月30日までに震度1以上を観測する地震が45回（震度4：1回、震度3：9回、震度2：20回、震度1：15回）発生した。

(O) 青森県東方沖の地震活動（最大規模の地震：12月8日 M7.5）

要旨：2025年12月8日23時15分に青森県東方沖の深さ54kmでM7.5の地震が発生した。この地震は、発震機構（CMT解）が西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。この地震により、青森県八戸市で震度6強を観測した。また、青森県三八上北で長周期地震動階級3を観測した。さらに、岩手県の久慈港（国土交通省港湾局）で64cm、北海道の浦河（国土交通省港湾局）で50cmなど、北海道から東北地方にかけての太平洋沿岸を中心に津波を観測した。

また、12月12日11時44分に青森県東方沖の深さ17kmでM6.9の地震が発生した。この地震は、発震機構（CMT解）が東西方向に圧力軸を持つ逆断層型である。この地震により、北海道及び東北地方で震度4を観測した。また、秋田県内陸北部で長周期地震動階級2を観測した。さらに、北海道のえりも町庶野で0.2m（巨大津波観測計により観測）、青森県の八戸港（国土交通省港湾局）で14cmなど、北海道と青森県の太平洋沿岸で津波を観測した。

12月8日のM7.5及び12日のM6.9の地震が発生して以降地震活動が継続しており、特に2025年12月12日のM6.9の地震の震源付近で活発に推移している。12月8日から2026年1月31日までに震度1以上を観測した地震は、60回（震度6強：1回、震度4：4回、震度3：9回、震度2：16回、震度1：30回）であった。

(O) 岩手県沖の地震（12月31日 M6.1）

要旨：2025年12月31日23時26分に岩手県沖の深さ32kmでM6.1の地震（最大震度4）が発生した。この地震は、発震機構（CMT解）が西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

(S) 三陸沖の地震（1月28日 M5.2）

b. 相模トラフ周辺・首都圏直下

(S) 茨城県南部の地震（12月12日 M4.9）

(S) 千葉県東方沖の地震（1月9日 M4.6）

c. 南海トラフ・南西諸島海溝周辺

(S) 南海トラフ沿いの地震活動

(S) 東海地域から豊後水道にかけての深部低周波地震活動

(S) 南海トラフ沿いの長期的スロースリップの客観検知

(S) 東海・南関東地方の地殻変動

- (S) 東海の深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり（11月4日～9日）
- (S) 紀伊半島北部の深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり（11月11日～16日）
- (S) 紀伊半島西部の深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり（11月30日～12月4日）
- (S) 紀伊半島中部から紀伊半島西部の深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり（1月26日、31日）
- (S) 四国中部の深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり（11月18日～25日）
- (S) 四国西部の深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり（12月2日～12月13日）
- (S) 四国西部の深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり（12月31日～1月8日）
- (S) 四国東部の深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり（1月22日～1月29日）

d. その他

- (S) 中規模繰り返し相似地震の発生状況と発生確率（2026）

4. その他の地殻活動等

- (S) 釧路沖の地震（12月2日 M5.2）
- (S) 根室半島南東沖の地震（12月20日 M5.4）
- (S) 宗谷地方南部の地震（1月12日 M5.1、1月13日 M5.2）
- (O) 択捉島南東沖の地震（1月13日 M6.3）
要旨：2026年1月13日16時34分に択捉島南東沖の深さ30km(CMT解による)でM6.3の地震（最大震度2）が発生した。この地震の発震機構（CMT解）は北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。
- (S) 根室半島南東沖の地震（1月27日 M5.0）
- (S) 秋田県内陸北部の地震（1月9日18時56分 M4.3、20時24分 M4.2）
- (S) 岩手県沿岸北部の地震（1月11日 M5.1）
- (S) 「令和6年能登半島地震」（最大規模の地震：2024年1月1日 M7.6、期間中の最大規模の地震：12月14日 M4.9）
- (S) 石川県能登地方の地震（1月13日 M4.3）
- (S) 岐阜県飛騨地方の地震（1月15日14時40分 M4.8、14時48分 M5.2）
- (S) 茨城県北部の地震（1月24日 M4.5）
- (S) 千葉県南部の地震（1月29日 M4.5）
- (O) 島根県東部の地震活動（最大規模の地震：1月6日 M6.4）
要旨：2026年1月6日10時18分に島根県東部の深さ11kmでM6.4の地震（最大震度5強）が発生した。この地震は、発震機構（CMT解）が、西北西-東南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型で、地殻内で発生した。
- (S) 鹿児島県薩摩地方の地震（11月3日 M3.3）
- (S) 熊本県阿蘇地方の地震（最大規模の地震：11月25日 M5.8）
- (S) トカラ列島近海の地震活動（小宝島付近）（最大規模の地震：7月2日 M5.6、期間中の最大規模の地震：12月29日 M3.4）
- (S) 奄美大島近海の地震（12月30日 M5.7）
- (S) トカラ列島近海の地震活動（諏訪瀬島付近）（最大規模の地震：9月17日 M4.8、期間中の最大規模の地震：12月21日 M3.5）
- (O) 台湾付近の地震（12月28日 M7.0）
要旨：2025年12月28日00時05分に台湾付近の深さ86kmでM7.0の地震（日本国内で観測された最大の揺れは震度3）が発生した。この地震は、発震機構（CMT解）が、西北西-東南東方向に圧力軸を持つ型で、フィリピン海プレート内部で発生した。
- (S) 硫黄島近海の地震（1月10日 M5.5）
- (O) 硫黄島近海の地震（1月22日 M6.5）
要旨：2026年1月22日01時37分に硫黄島近海の深さ15km（CMT解による）でM6.5の地震（震度1以上を観測した地点はなし）が発生した。この地震は、発震機構（CMT解）が北西-南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。
- (S) アフガニスタン、ヒンドゥークシの地震（11月3日 Mw6.3）
- (S) バングラデシュの地震（11月21日 Mw5.4）

【2】国土地理院

1. 地殻活動の概況

b. 地殻変動

- (O) GEONET による全国の地殻変動（水平）（3 か月）

要旨：GEONET による GNSS 連続観測から求めた、最近 3 か月間における全国の水平方向の地殻変動を報告する。

- (O) GEONET による 2 期間の地殻変動ベクトルの差

要旨：最近 3 か月間の水平方向の地殻変動について、1 年前の同時期の水平変動ベクトルとの差を取って得られた非定常的な変動の概況を報告する。

- (O) GEONET による全国の地殻変動（水平）（1 年）

要旨：GEONET による GNSS 連続観測から求めた、最近 1 年間における全国の水平方向の地殻変動を報告する。

- (O) GNSS 連続観測から推定した日本列島のひずみ変化

要旨：GNSS データから推定した、最近 1 年間における日本列島のひずみ変化の概況を報告する。

2. 東北地方太平洋沖地震関連

【平成 23 年(2011 年)東北地方太平洋沖地震後の地殻変動】

- (O) 地殻変動ベクトル

要旨：東北地方太平洋沖地震後における水平・上下の地殻変動について、全期間の累積変動の概況を報告する。

- (O) GNSS 連続観測時系列

要旨：東北地方太平洋沖地震後の東日本における GNSS 連続観測の時系列の概況を報告する。

- (O) 変位速度のプレート収束方向に関する水平勾配（北海道～関東地方）

要旨：東北地方太平洋沖地震後のプレート間の固着状況の変化について、電子基準点の変位速度のプレート収束方向に関する水平勾配によるモニタリングの概況を報告する。

3. プレート境界の固着状態とその変化

a. 日本海溝・千島海溝周辺

【2025 年 11 月 9 日の三陸沖の地震】

- (O) 地殻変動ベクトルと GNSS 連続観測時系列

要旨：GNSS 連続観測で地殻変動が検出されたので、その概況を報告する。

c. 南海トラフ・南西諸島海溝周辺

【森～掛川～御前崎間の上下変動】

- (S) 電子基準点の上下変動（5 基線）

- (S) 電子基準点の上下変動 GNSS 連続観測

- (S) 駿河湾周辺 GNSS 連続観測時系列

- (S) 東海地方の非定常地殻変動

- (O) 東海地域の非定常水平地殻変動（長期的ゆっくりすべり）

要旨：2022 年初頭から静岡県西部から愛知県東部において、これまでの傾向とは異なる地殻変動を GNSS で観測したので、その概況を報告する。

- (S) 紀伊半島 電子基準点の上下変動 GNSS 連続観測

- (S) 南海トラフ周辺 GNSS 連続観測時系列

- (S) 南海トラフ沿いの非定常地殻変動

- (O) 四国西部の非定常地殻変動（短期的ゆっくりすべり）

要旨：四国西部において、深部低周波地震（微動）と同期したゆっくりすべりを GNSS データから推定したので、その概況を報告する。

- (S) 室戸岬周辺 電子基準点の上下変動 GNSS 連続観測

【2024 年 8 月 8 日の日向灘の地震後の地殻変動】

- (O) 地殻変動ベクトルと GNSS 連続観測時系列

要旨：地震後の GNSS 連続観測の解析結果を報告する。

- (O) 余効すべり

要旨：地震後に GNSS で観測された地殻変動を基に余効すべりの分布を推定したので、その概況を報告する。

4. その他の地殻活動等

(S) 北海道太平洋岸 GNSS 連続観測時系列

【2025年12月8日に発生した青森県東方沖の地震】

(O) 地殻変動ベクトルと GNSS 連続観測時系列

要旨：GNSS 連続観測で地殻変動が検出されたので、その概況を報告する。

(O) 「だいち2号」「だいち4号」による SAR 干渉解析結果

要旨：だいち2号及びだいち4号のデータの解析を行ったので、その概況を報告する。

(O) 震源断層モデル

要旨：GNSS で観測された地殻変動を基に震源断層モデルを推定したので、その概況を報告する。

(O) 余効すべりモデル

要旨：地震後に GNSS で観測された地殻変動を基に余効すべりの分布を推定したので、その概況を報告する。

(S) 関東周辺 GNSS 連続観測時系列

【令和6年能登半島地震】

(O) 地殻変動ベクトルと GNSS 連続観測時系列

要旨：令和6年能登半島地震に関する GNSS 連続観測のとりまとめ結果を報告する。

【2026年1月6日の島根県東部の地震】

(O) 地殻変動ベクトルと GNSS 連続観測時系列

要旨：GNSS 連続観測で地殻変動が検出されたので、その概況を報告する。

【2025年2月からの山口県北部の地震活動周辺域の地殻変動】

(O) 地殻変動ベクトルと GNSS 連続観測時系列

要旨：GNSS 連続観測の解析結果を報告する。

【2025年11月25日の熊本県阿蘇地方の地震】

(O) 地殻変動ベクトルと GNSS 連続観測時系列

要旨：GNSS 連続観測で地殻変動が検出されたので、その概況を報告する。

【2025年6月21日からのトカラ列島近海の地震活動】

(O) 地殻変動ベクトルと GNSS 連続観測時系列

要旨：地震活動期間の GNSS 連続観測の解析結果を報告する。

【3】北海道大学

【4】東北大学理学研究科・災害科学国際研究所

【5】東京大学地震研究所

【6】東京科学大学

【7】名古屋大学

【8】京都大学理学研究科・防災研究所

【9】九州大学

【10】鹿児島大学

【11】統計数理研究所

1. 地殻活動の概況

a. 地震活動

(O) 2025年12月8日 M7.6 青森県東方沖地震の余震活動の多様性について

要旨：日本海溝帯は地震活動が非常に活発であると同時に、地質学的・応力環境的に多様な地震活動様式を示す地域である。本報告では、青森県東方沖を震源として発生したマグニチュード7.6の大地震（以下「本震」）の余震系列を対象に、定常・非定常 ETAS モデルによるモデル選択を適用し、余震活動が示す多様性について検討する。

【12】防災科学技術研究所

3. プレート境界の固着状態とその変化

a. 日本海溝・千島海溝周辺

(S) 日本周辺における浅部超低周波地震活動

c. 南海トラフ・南西諸島海溝周辺

(S) 日本周辺における浅部超低周波地震活動

(O) 西南日本の深部低周波微動・短期的スロースリップ活動状況

要旨：短期的スロースリップイベントを伴う顕著な微動活動は、1月1日～7日に四国西部から豊後水道で発生した。これら以外の主な微動活動として、11月9日～16日に紀伊半島中部で、11月18日～23日に四国中部で、12月1日～6日に紀伊半島西部で、12月4日～12日に四国中部から西部で、1月21日～28日に四国東部から中部での微動活動が検知された。

(S) 2025年12月8日青森県東方沖の地震 観測点補正值による震源再決定

(S) 2025年12月8日青森県東方沖の地震による高周波エネルギー輻射量

【13】産業技術総合研究所

3. プレート境界の固着状態とその変化

c. 南海トラフ・南西諸島海溝周辺

(S) 東海・伊豆地域における地下水等観測結果 (2025年11月～2026年1月)

(S) 紀伊半島～四国の地下水・歪観測結果 (2025年11月～2026年1月)

(S) 東海・紀伊半島・四国における短期的スロースリップイベント (2025年11月～2026年1月)

4. その他の地殻活動等

(S) 神奈川県西部地域の地下水位観測 (2025年11月～2026年1月)

(S) 岐阜県東部・長野県西部における活断層周辺における地殻活動観測結果 (2025年11月～2026年1月)

(S) 近畿地域の地下水・歪観測結果 (2025年11月～2026年1月)

(S) 鳥取県における温泉水・地下水変化 (2025年8月～2026年1月)

【14】海上保安庁

2. 東北地方太平洋沖地震関連

(S) 日本海溝沿いの海底地殻変動観測結果

3. プレート境界の固着状態とその変化

c. 南海トラフ・南西諸島海溝周辺

(S) 南海トラフ沿いの海底地殻変動観測結果

【15】海洋研究開発機構

3. プレート境界の固着状態とその変化

a. 日本海溝・千島海溝周辺

(O) 北海道・東北沖の地震のサイズ分布 (b 値) の時空間変化 (続報)

要旨：北海道・東北沖の地震の規模別頻度分布 (b 値) の時空間変化について、前回と同様、第244回 (2024年8月29日) に「プレート境界の固着状態とその変化」で報告した内容の続報。2003年十勝沖震源域の東側の、1952年十勝沖地震で滑りの大きかった場所付近のb値が、前回報告時同様、0.5程度の低い値を示している。また、1968年十勝沖地震ならびに1994年三陸はるか沖地震の震源域のb値も前回同様に低い値 (0.6程度) を保っている。そのb値が低い領域内で12月8日の青森県東方沖地震 M7.5 の地震が発生し、その後も活発な地震活動が続いている。

【16】その他の機関

記載分類

(O) 口頭報告, (S) 資料提出のみ

1. 地殻活動の概況
 - a. 地震活動
 - b. 地殻変動
2. 東北地方太平洋沖地震関連
3. プレート境界の固着状態とその変化
 - a. 日本海溝・千島海溝周辺
 - b. 相模トラフ周辺・首都圏直下
 - c. 南海トラフ・南西諸島海溝周辺
 - d. その他
4. その他の地殻活動等
5. 地殻活動の予測実験